

地域密着型金融の取り組み状況(平成21年度)

項目	取り組み状況
1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化	
(1)創業・新事業支援	
奥州市等の制度融資や支援機関との連携を活用し、地域企業の新規事業を支援します。	創業・新事業展開事業者の資金需要に対し資金提供を図りました。 実績 奥州市制度融資・開業資金 6先 40百万円 日本政策金融公庫との協調融資 1先
(2)経営改善支援	
企業支援課の経営改善指導などにより事業支援を継続します。東北地区協会が主催するビジネスマッチング事業に積極的に取り組みます。	企業支援課による経営改善指導のもと、経営改善計画書の策定は18先に及びましたが、債務者区分のランクアップには至りませんでした。ビジネスマッチ東北2009に取引先企業2社が参加しました。
(3)事業再生支援	
中小企業再生支援協議会の活用を図り、事業再生の支援に努めます。	中小企業再生支援協議会の活用実績は低調でしたが、今後も連携を密に取り組みの強化を図ります。
(4)事業承継支援	
「みちのく奥州イブニングサロン」への参加を継続し、地域の産学官と共に支援に努めます。	「みちのく奥州イブニングサロン」の情報交流会に参加し、異業種間及び産学官の連携による地域活性化推進の取り組みについて議論を重ねました。
2. 事業価値を見極める融資をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底	
(1)担保・保証に過度に依存しない融資等への取り組み	
信用保証協会の活用などによる資金支援に努めます。	担保・保証に過度に依存しない融資等への取り組みとして、岩手県信用保証協会付融資の推進を図りました。 実績 398件 3,318百万円
(2)「目利き機能」の発揮に向けた取り組み	
研修派遣や通信講座受講を通じて職員のレベルアップを図ります。	東北地区信用金庫協会が主催する「目利き力養成講座」へ3名の職員を派遣しました。また、多くの職員が中小企業支援に関する通信講座を受講するなど、レベルアップが図られております。

地域密着型金融の取り組み状況(平成21年度)

項目	取り組み状況
3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献	
(1)地域全体の活性化、持続的な成長を視野に入れた、同時的・一体的な「面」的再生への取り組み	
奥州市中心市街地活性化協議会への参加を継続し、地域の活性化に取り組みます。	地域経済団体の一員として地域活性化基本計画の策定に向けて協議を重ねました。
(2)地域活性化につながる多様なサービスの提供	
地域を担う若い世代の金融経済知識の普及に努めます。	市内中学校からの要請を受け、金融機関に興味をもつ生徒を対象に「お金の大切さ」等についての講座を開催しました。
4. 信用金庫に特に求められる事項	
(1)地域社会への貢献・還元	
地域振興イベントなどへの協賛・参加、毎月の清掃活動を継続します。	水沢公園桜まつり会場に夜桜ライトアップのため投光器を提供しました。創立60周年記念事業「瞳ひろし特別公演」を開催し、大勢のお客様にご来場いただきました。また、その収益金を奥州市文化振興財団に寄贈いたしました。
(2)会員組織の充実	
お客様組織である、「すいしん会」「青信会」の更なる活性化を推進します。	講演会・研修会等を開催し会員相互の親睦を図りました。
(3)お客様のニーズを踏まえた商品の提供	
お客様のニーズに合った新たなローン商品を提供します。また、住宅ローンの商品内容見直しなど、地域の皆様の期待にお応えする商品の提供に努めます。	預金商品では、地域貢献を目的として地元の商品券を進呈する「創立60周年記念 商品券付定期預金」(22年1月末で終了)を取り扱いました。そのほか、積立に損害保険をセットした傷害保険付定期積金の取り扱いを始めました。ローン商品においては、Webやファックスでの仮審査申込み可能なフリーローン「ベストサポート300」の取り扱いを始めました。また、Ecoカー・Eco住宅など環境に配慮した商品の購入資金には優遇金利を適用しています。
(4)経営力の強化	
地域経済へ持続的に貢献できるよう、ガバナンスの強化、コンプライアンス態勢・リスク管理態勢の強化等、経営力の更なる強化に努めます。	理事会をはじめ、ALM委員会・コンプライアンス委員会等を定期的で開催し、各種リスクを適切に管理することにより経営の健全性の強化に努めております。22年3月末の自己資本比率は12.96%と健全性の基準となる4%を大きく上回っています。